

**施策の評価**

<b>施策の柱</b>	<b>柱④-1</b>	<b>心の教育改革 ～いじめ・不登校対策～</b>
-------------	-------------	---------------------------

**1. 施策の主要目標の達成度**

施策の主要目標	目標達成度	判断理由																													
<p>① <b>■生徒指導体制の充実</b> 生徒指導主事のコーディネート力等の向上を図り、開発的・予防的生徒指導を組織的に進めるとともに、教職員の児童生徒理解力を高めることにより、温もりのある学級づくりを進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; width: fit-content;">             目標達成のための主な手段 事業 25、27           </div>	<b>C</b>	<p>◆コーディネーション型生徒指導主事養成支援事業 ◇モデル校における予防的、組織的な生徒指導の実践（3校） ・不登校児童生徒数：41人（H22）→34人（H23） ・いじめ認知件数：11件（H22）→10件（H23） ・暴力行為発生件数：71件（H22）→66件（H23） ◇H23年度Q-Uアンケートにおける学級満足群の状況（3校） 前期：51.5% →後期：50.9%</p> <p>◆温かい学級づくりの推進 ◇Q-Uアンケート実施率100%達成 ◇Q-Uアンケート活用率及び学級満足群に位置する割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">H22</td> <td style="text-align: center;">H23</td> </tr> <tr> <td>Q-Uアンケート活用率</td> <td style="text-align: center;">86%</td> <td style="text-align: center;">88%</td> </tr> <tr> <td>学級満足群に位置する割合</td> <td style="text-align: center;">58.5%</td> <td style="text-align: center;">58.9%</td> </tr> </table> <p>◇県内市町村に学級づくりリーダー60名を養成（H23年度）</p>		H22	H23	Q-Uアンケート活用率	86%	88%	学級満足群に位置する割合	58.5%	58.9%																				
	H22	H23																													
Q-Uアンケート活用率	86%	88%																													
学級満足群に位置する割合	58.5%	58.9%																													
<p>② <b>■教育相談体制の充実及び対応力の向上</b> 児童生徒や保護者、教職員が抱える課題を解決するために、専門家の配置等の支援を行うとともに、悩み・課題を抱える児童生徒や保護者に対する教職員、専門家の対応力を向上させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; width: fit-content;">             目標達成のための主な手段 事業 26           </div>	<b>C</b>	<p>◆SC等の配置状況及び相談・対応件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">配置状況</th> <th colspan="2">相談・対応件数</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">H22</th> <th style="text-align: center;">H23</th> <th style="text-align: center;">H22</th> <th style="text-align: center;">H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SC</td> <td style="text-align: center;">137校</td> <td style="text-align: center;">174校</td> <td style="text-align: center;">24,076件</td> <td style="text-align: center;">27,946件</td> </tr> <tr> <td>AD</td> <td style="text-align: center;">21校</td> <td style="text-align: center;">23校</td> <td style="text-align: center;">3,687件</td> <td style="text-align: center;">3,578件</td> </tr> <tr> <td>子どもと親</td> <td style="text-align: center;">19校</td> <td style="text-align: center;">19校</td> <td style="text-align: center;">6,250件</td> <td style="text-align: center;">4,692件</td> </tr> <tr> <td>SSW</td> <td style="text-align: center;">18市町村 29人</td> <td style="text-align: center;">19市町村 32人</td> <td style="text-align: center;">1,006件</td> <td style="text-align: center;">1,095件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇H23年度、学校での支援会議参加状況等（SC、AD、子どもと親計） 支援会議への参加：延べ975回 研修会の講師：127回 心に関する授業の実施：141回 ◇H23年度、SSWの支援による解決、好転件数（1,095件の内数） 解決件数：89件、好転件数：252件</p>		配置状況		相談・対応件数		H22	H23	H22	H23	SC	137校	174校	24,076件	27,946件	AD	21校	23校	3,687件	3,578件	子どもと親	19校	19校	6,250件	4,692件	SSW	18市町村 29人	19市町村 32人	1,006件	1,095件
	配置状況			相談・対応件数																											
	H22	H23	H22	H23																											
SC	137校	174校	24,076件	27,946件																											
AD	21校	23校	3,687件	3,578件																											
子どもと親	19校	19校	6,250件	4,692件																											
SSW	18市町村 29人	19市町村 32人	1,006件	1,095件																											
<p>③ <b>■学校不適応防止対策</b> 校種間の連携により、不登校・いじめ等に対する予防的な取組を推進するとともに、児童生徒の環境への適応力の向上や、人間関係を構築する力を醸成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; width: fit-content;">             目標達成のための主な手段 事業 24、25、28           </div>	<b>C</b>	<p>◆不登校児童生徒数 731人（H22）→726人（H23） （公立小中学校、「問題行動・長期欠席（不登校等）に関する調査（高知県方式）」【速報値】）</p> <p>◆Q-Uアンケートにおける学級満足群に位置する児童生徒の割合（公立小、中学校） 小学校：60.7%（H22）→62.0%（H23） 中学校：53.1%（H22）→53.9%（H23）</p> <p>◆「中1仲間づくり合宿」の実績 実施校：53校（H22）→62校（H23） 実施後の引率教員への追跡アンケート：「学級経営に効果あり」と回答した割合99%（※青少年センター・幡多青少年の家調べ）</p>																													
<p>④ <b>■キャリア支援の推進</b> 人間関係形成能力・将来設計能力・情報活用能力・意志決定能力を育む支援を行うことにより、ニートや引きこもり、非行少年等に対して社会的自立を支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; width: fit-content;">             目標達成のための主な手段 事業 29           </div>	<b>C</b>	<p>◆若者学びなおし自立支援事業の実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">H22</th> <th style="text-align: center;">H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こうちサポートステーション新規登録者数</td> <td style="text-align: center;">6.9人/月</td> <td style="text-align: center;">9.8人/月</td> </tr> <tr> <td>高知黒潮若者サポートステーション新規登録者数</td> <td style="text-align: center;">7.5人/月</td> <td style="text-align: center;">5.1人/月</td> </tr> <tr> <td>進路決定率（累積）</td> <td style="text-align: center;">35.4%</td> <td style="text-align: center;">40.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆高等学校における予防的支援に焦点を当てた校内支援体制づくり ・支援対象校：10校（延べ105回のコーディネーター支援） ・校内におけるPDCAに基づく支援サイクルの進展等</p>		H22	H23	こうちサポートステーション新規登録者数	6.9人/月	9.8人/月	高知黒潮若者サポートステーション新規登録者数	7.5人/月	5.1人/月	進路決定率（累積）	35.4%	40.9%																	
	H22	H23																													
こうちサポートステーション新規登録者数	6.9人/月	9.8人/月																													
高知黒潮若者サポートステーション新規登録者数	7.5人/月	5.1人/月																													
進路決定率（累積）	35.4%	40.9%																													

**2. 施策を構成する個別事業・取組の評価結果**

	個別事業・取組	目標達成度	検討項目	総合評価
24	不登校・いじめ等対策小中連携事業	C	エ	委託4市の不登校児童生徒数を平成22年度より30名以上減少させる目標は達成できなかったが、30日以上欠席者数は、平成22年度より40名減少させることができた。 委託4市や重点中学校区では、小中連続した人間関係づくりや生徒指導のシステム化、スーパーバイザー派遣による校内支援体制の充実、組織的な小中連携のシステムづくりが進んできた。
25	温かい学級づくり応援事業	B		取組を始めて4年目の平成23年度に小中学校におけるQ-Uアンケートの実施率が100%となった。 教員のQ-Uアンケートの活用率や、学級満足群に位置する児童生徒の割合も年々上昇しており、児童生徒理解や学級集団理解のためのツールとして定着した。
26	教育相談体制の充実 スクールカウンセラー活用事業 心の教育アドバイザー活用事業 子どもと親の相談員活用事業 スクールソーシャルワーカー活用事業	C	イ、エ	スクールカウンセラー等の専門性、スクールソーシャルワーカーの対応力及び学校を含めた連携強化は着実に進んでおり、悩みや不安を抱える児童生徒や保護者等への支援が充実した。 生徒指導上の諸問題の改善につなげるため、今後も教育相談体制の充実を進める必要がある。
27	コーディネーション型生徒指導主事養成支援事業	C	エ	モデル校において、教職員に生徒指導の意義について周知することができたとともに、生徒指導主事を中心とする予防に視点を当てた組織的な生徒指導体制を構築することができた。
28	青少年教育施設振興事業費 ※青少年センター、幡多青少年の家主催事業	B		宿泊研修前後の協議・アンケートを通じて、学校と密接に連携した取組ができた。 アンケートでは、「中1時の学級経営に効果がある」など、教員、生徒から高い評価を得ることができた。
29	若者の学びなおしと自立支援事業	C	エ	若者サポートステーションを核とした就学及び就労に向けた支援は有効に機能している。また、中学校卒業時及び高校中退時の進路未決定者のサポートステーションへの誘導システム「若者はばたけネット」も個人情報の取扱いの整備により、有効に機能し始めており、学校教育から継続した支援が進みつつある。

**3. 施策の総合評価と今後の方向**

総合評価	目標達成度	内容
<b>C</b>	<b>C</b>	施策の主要目標の全項目で目標を達成できなかった。 しかし、個別の事業では、想定以上の成果を上げたものや、取組の充実につながっているものもある。
<b>今後の方向</b>		<p>①生徒指導体制の充実 生徒指導主事を中心とする予防の視点での組織的な生徒指導体制を構築するためには、学校経営に位置付ける必要があることから、管理職への助言を含めて取組を進める。また、コーディネーション型生徒指導主事養成支援事業のモデル校の成果等を中学校生徒指導主事会等で発表し、県内への取組の普及を図る。</p> <p>②教育相談体制の充実 スクールカウンセラー等の評価制度の導入などにより、スクールカウンセラー等の専門性の向上を図るとともに、学校との連携強化を進める。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の配置拡充を進めるため、人材の発掘・確保を図る必要がある。</p> <p>③学校不適応防止対策 小小、小中連携のシステムの定着、児童生徒の自尊感情の向上、校内支援体制の充実について取組を強化し、課題解決の加速化を図る。また、中1仲間づくり合宿は、目的を明確にして実施することで不登校や問題行動の減少につながっていることから、こうした成果を紹介し、実施校を増やしていく。</p> <p>④キャリア支援の推進 「若者はばたけネット」を活用した中学校卒業時及び高校中退時の進路未決定者の若者サポートステーションへの誘導を強化し、学校教育から継続した支援を図る。また、地域の状況に応じた連携の強化やモデル的な取組を推進するとともに、発見・誘導、支援の協働等の充実を図るため関係機関との連携を強化する。</p>